

唐津市巖木特産品展示販売施設 事業提案概要書

1 施設の平等利用が確保されること。

巖木町の特産品販売を通じて、農林・商工業者の所得を増やす。
唐津市の玄関口として、利用者に巖木温泉や環境芸術の森を含む唐津市の観光情報を提供。
利用者の立場に立ち、高齢者や身障者にも、家族同様に接する。
出品者に利用者のニーズを知らせ、それにマッチする農産物を提供してもらう。
巖木町在住であれば、出荷については無条件で許可する。
他人に迷惑をかけないことを前提に、すべての人に、施設の利用を認める。

2 施設の効用が最大限に発揮されること。

出荷者には売れる場所での展示や鮮度に応じた価格設定や返品連絡の徹底を図る。
買い物しやすい環境を作る。比較購入できる展示や大きい価格表示や商品説明・
消毒液の設置や換気の徹底、マスクの装着、ソーシャルでスタンスを取り、安心感の提供。
町内観光地のパンフレットを設置し、一日滞在の促進を図る。
巖木温泉水を使い蒸し玉子を販売して、温泉をPRする。
利用者の声をもとにして、期待に応えるように取り組む。
年一回の出荷者の集会を開き、消費者の要望を伝え、出荷者の意見も拝聴する。
町内のイベントには、協賛金で協力し、地域振興に貢献する。
町内の中学校や高校の職業体験の場を提供し、巖木町との新たな発見をしてもらう。
できるだけ、町内から、雇用し、市民税等の支払いにつなげる。

3 管理に係る経費の縮減が図られること。

民間として、最小の経費で最大効果をもたらす考えを貫く。
施設管理については、専門の業者に委託し、質を落とさず、適切な金額で、契約。
市内業者優先で活用。ネット等を参考に価格を考慮して、物品調達を行う。
ほかの費目は縮減しても、人件費は経費ではないため、縮減の対象にはしない。

4 管理を行う物的、人的能力を有していること。

平成7年の開館以来、今日まで、指定管理を受け、必要な管理能力はある。運営に必要な、
物的な備品等も一部、所有している。
スタッフは「風のふるさと館」に5年以上の勤務経験を有する者が10名中9名在籍し、道
の駅の運営と、農産直売所の運営はともに能力は備えている。